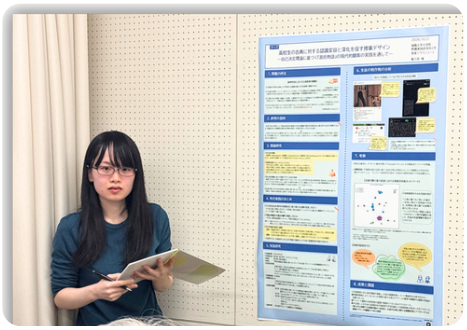
福島大学大学院 教職実践研究科

教職大学院便り

2026年11月5日発行　No.16
編集：教職実践研究科 1年 阿部



「現場の『なぜ？』が『気づき』に変わる場所」



私は、その教科や科目を学ぶ本質的な意義を、生徒が自ら見いだせるような授業デザインに関心をもち、研究を行っています。

教職大学院は、「そもそも～とは何なのか？」「なぜそうなるのか？」といった教育の根源的な問いを、とことん突き詰めて考えることができる場所です。講義中はもちろん、日常のふとした瞬間にも、仲間たちや先生方との議論が自然と湧き起こります。

初めは、研究というものの奥深さに圧倒されることもありました。しかし、ここでの学びは決して孤立したものではありません。月例の合同カンファレンスをはじめ、周囲の方々から助言をいただける機会が豊富にあります。私自身も、合同カンファレンス等での活発な意見交換を通して、数多くの気づきを得てきました。

この２年間で得た貴重な経験や仲間との強い絆は、今後の大きな糧になると確信しています。これからも一層研究に励み、自らを常にアップデートしていけるよう、努力を続けていきます。

授業デザインコース2年　高久田 唯（現職派遣・高等学校籍）

「学習意欲が高まる外国語科の授業とは」

「AIが翻訳してくれるのに、どうして英語を学習しなきゃいけないの？」

子どもたちにそう問われたら、みなさんはなんとお答えになりますか。私は、ICT機器を活用することで、子どもたちの学習意欲が向上する外国語科の授業づくりを研究しています。

AIの発展が著しい現代、検索も画像生成も音楽づくりだって簡単にAIがしてくれます。翻訳もAIのお家芸です。そのような時代にあって、どうして私たち（子どもたち）は外国語を学ぶのでしょうか。



そのひとつの答えが、「人との関わり」にあると感じます。子どもたちが外国語を学ぶことを通して「英語を話せるようになってみたい」「今までできなかったことが、できるようになってうれしい」と目を輝かせるような授業ができるようになりたいと思っています。日本で暮らす私たちだからこそ、英語を通して、学ぶ楽しさを感じることができると信じています。

「相手を意識し、その人にだからこそ伝わる言葉を選び、非言語も交えて伝える」。

学ぶことに意欲を燃やして取り組んでいる子どもたちを思い描いて…。

授業デザインコース１年　永山 光司（現職派遣・小学校籍）

「教職実践研究会＠福島」第2回研究会のご案内

会期：2026年11月28日（土）
会場：福島大学金谷川キャンパスM講義棟

「**教職実践研究会＠福島**」は、教育学、教科教育学、特別支援教育、ミドル・リーダー養成などの教職大学院に関する複数分野が一堂に会する研究発表会です。会員制ではありません。発表資格に該当する方で、教育に関する研究内容であれば発表が可能です（発表資格について詳細は研究会ホームページをご参照ください）。

今年度の発表申し込みは終了していますが、参加される場合は当日参加もできますので、その際には受付に直接お越しください。

▲研究会HP

教職大学院について詳しく知りたいときは…

▲教職大学院案内　▲入試情報

＜お問い合わせ＞
福島大学 人間発達文化学類 支援室
Mail：ningen@adb.fukushima-u.ac.jp
Tel：024−548−8103



教職大学院生の研究内容を紹介します！

特別支援学校(知的障害)高等部のキャリア教育における自立活動の指導と教科指導との関連を図った授業づくりの試み

特別支援教育コース1年　佐藤 雄哉
（現職派遣・特別支援学校籍）

研究の概要

-生徒の自己理解を目指した学習の展開の充実を目指して-

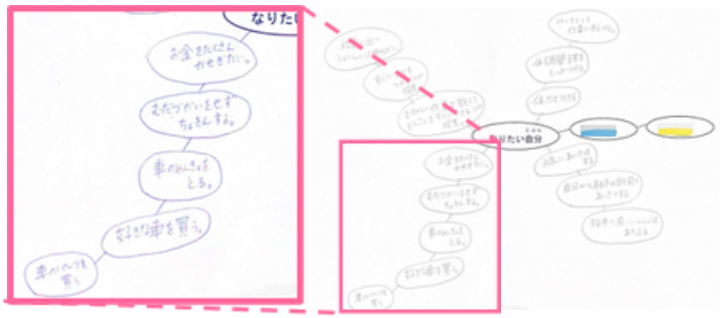
- 特別支援学校(知的障害)高等部のキャリア教育において、**自立活動の指導と教科指導(職業科)との関連を目指した実践**を試みています。
- 生徒が自身の強みや課題を具体的に理解したうえで、キャリア形成に係る目標をどのように明確にし、実践していくのか、自立活動の時間における指導の学びを、産業現場等における実習の目標設定や振り返りに積極的に活用していくなど、よりよい職業科に係る授業づくりについて研究を進めています。

連携協力校での実践

対象：特別支援学校(知的障害)高等部２学年に在籍する生徒７名

自立活動の指導「思考の整理の仕方」(令和8年6月実施)

- 「自分の良さ」や「なりたい自分」について、生徒が思考を整理するためのツール(マインドマップやマンダラート)を用いてまとめる学習に取り組みました。
- 考えていることが視覚的に分かりやすい形式で示されることで、生徒が自分自身の考えを整理する方法を身に付けることや、より肯定的な自己理解に繋げられることをねらいとしました。



- 生徒の一人は、「車が好き」という自分にとって関心の高い事柄に気付き、その後の実習先の検討に繋げることができました。

職業科「産業現場等における実習の目標の検討」

- 実習に向けた事前学習では、生徒の自己分析や目標の検討の場面において、自立活動で学んだ思考を整理するためにマンダラート調の様式のワークシートを用いた学習展開を試みました。
- 生徒が自分自身の長所や課題を整理することや、実習に向けた具体的な目標を検討することをねらいとしました。





- 授業では、生徒がそれぞれの実習先での活動内容を説明し合ったり、生徒同士で具体的な場面を想定した助言を伝えたりするなど、対話的な活動場面を取り入れました。
- 生徒一人一人が実習に向けた目標について、他者の意見を踏まえ、自身の当初の目標を修正・検討することができました。

小学校理科における根拠を基にした対話を重視する授業デザイン

授業デザインコース2年　菊地 実咲
（現職派遣・小学校籍）

研究の概要

これまで行ってきた授業では，子どもたちが主体的に学ぶ姿を目指し，教材提示の工夫や振り返り記述の充実に力を入れていました。一方，結果を基に考える指導が不十分でした。協働する場面においても事実の共有や発表に留まり，思考を深める子どもの姿を引き出すことの難しさを痛感していました。そこで大学院では，子ども自身が対話の必要性を感じながら，自分の考えを他者の考えと比較・調整し，協働的に問題を解決する力を育成することを目指し，研究を進めています。

研究の目的　小学校理科における根拠を基にした対話を重視する授業デザインについて多面的に検討する。

実施した授業

実施時期　2026年4月～6月　　**対象児童**　公立A小学校（連携協力校）第5学年2学級　計41名

子どもの思考や観察・実験状況に応じて並行して実施

オリエンテーション（1時間）	植物の発芽と成長（16時間）	天気の変化（8時間）
理科の学習の進め方を振り返りました。Google Workspaceにログインし，ドキュメントやスライドなどの基本操作を確認しました。	子どもは，発芽に必要な条件を水・日光・空気・肥料・土・気温と予想しました。調べる条件を個別に選び，観察・実験を行いました。	雲の様子を，子どもがGoProを用いてタイムラプス撮影し，天気によって移動速度や高さに違いがあることに気づきました。

根拠を基にした対話を重視する授業デザイン

自立的な学習を支える空間デザイン

子どもの思考に沿った学習活動を展開するため，すべての授業を理科室で実施しました。また，子ども自身が見通しをもって学習できるよう，「理科の学び方」を掲示し，適宜確認しながら学習を進めました。



協働空間の構築

黒板の代替として，学級全員に編集権限を付与したGoogle ドキュメントとこれを常時投影する大型スクリーンを導入しました。これにより，根拠となる情報の共有や協働作業が容易になりました。



学習ログ集約システムの構築

ノートからGoogle スライドに切り替え，Google Apps Scriptを用いて，集約するシステムを構築しました。これにより，個別の学習状況を一元的に素早く把握することが可能になりました。構築する際には，大規模言語モデルGeminiを活用しました。

